

活動報告

◆ 診療部 診療部長 大島茂樹・田辺大朗

循環器内科・呼吸器科・消化器内科・外科・泌尿器科・脳神経外科・整形外科・心臓血管外科・内科外来の他に乳腺外来・大腸肛門外来・糖尿病外来・肝臓外来・腎不全外来・禁煙外来の特殊外来を設け、新患者数4,422名、再診患者数39,853名、年間の総受診者数は44,275名だった。365日24時間体制で救急外来を提供した。救急外来では、年間の受診者は5,209名で、救急車搬入では1,031名を受け入れた。熊本のドクターヘリと連携し緊急性の高い重症患者はヘリによる3次救急への搬送を行っている。

総入院患者数は43,261名で、科別入院患者数は内科9,850名、外科9,226名、整形外科8,531名、循環器内科7,549名、消化器内科8,093名だった。退院患者の年齢（平均値・中央値）は当院が開院した2004年度は69.4歳と74歳だったが、2013年度は75.4歳と79歳で、この10年間でそれぞれ6歳と5歳上昇しており地域の高齢化を反映するものとなった。退院患者の疾病分類では、消化器系疾患が最も多く363名で、次いで損傷、中毒およびその他の外因の影響が285名、循環器系の疾患が266名、新生物234名、呼吸器系164名の順だった。

前年度は外来化学療法室が新たに設けられ、主に外科・消化器内科・呼吸器科で39名が利用した。一般外来と隔てることで、化学療法により免疫が低下した患者さんも感染の危険無く治療が受けられるようになった。また静かな環境で治療に専念できることで好評である。次年度から田中看護部長が専任看護師として本格的に稼働する予定である。

在宅医療に力を入れるため、居宅介護支援事業所を設置し、専任のケアマネージャーが退院前からケアプランをたてることで退院をスムーズに行えるようになった。また自宅での療養を希望される患者のために訪問看護ステーションと連携し訪問診療を行っている。癌終末期であっても可能な限り在宅での療養を続け、要望があれば看取りまで行っている。

済生会の基本方針としての生活困窮者への生活全般への支援をMSWが中心となり取り組んでいる。2013年度は無料・低額医療は6%であり、今後10%を目標として活動していく予定である。

